学校体育功労賞を受賞して

熊本市立長嶺中学校長　楠木　正昭

「光陰矢の如し」と言います。月日が経つのは早い、１日は長く感じるが１年は早く感じるとも言います。教職生活３３年間が経過し、振り返ると様々な厳しい状況を乗り越えながらも、後一年の教職生活となりました。

今年度、全国学校体育功労者賞を受賞させていただきました。県中体連の理事長、会長を勤めさせていただきましたが、何の実績もございません。多くの素晴らしい先生がおられる中で受賞させていただき、身に余る光栄であり、恐縮にたえません。このような私をこれまで支えていただいた先生方に、心より感謝申し上げます。

さて、平成２８年４月に発生した熊本地震により甚大な被害を受けました。私自身心が折れそうになりましたが、このような中日本中体連では各都道府県に熊本県中体連への支援を呼びかけていただき、九州中体連では８月九州大会熊本開催予定の（軟式野球とバスケットボール）を福岡県と宮崎県で急遽開催していただきました。さらに、佐賀県中体連では「心を込めて応援タオルを作成しました」「１日も早い復興をお祈り申し上げます。頑張ろう熊本」のロゴ入りのタオル３，７００枚を届けていただきました。改めて人の優しさ・人の温かさ、そして中体連の絆を実感したところです。

平成２９年度教職生活最後の年になりますが、昨年に引き続き激動の１年になりそうです。７月県中学校総合体育大会ブロック大会（芦北水俣郡市・球磨人吉）初年度であり、８月全国中学校体育大会、陸上・サッカー大会の開催、１１月に九州学校体育研究発表大会の熊本市開催、そして日本中体連研究発表北海道大会の発表と目白押しです。震災の厳しい困難にも負けない「復興のシンボル」として、全国の大会において熊本の元気な姿を発信し「勇気」を与えることができればと思っています。そして、中体連への恩返しと思い精一杯頑張っていきたいと思っております。

これまでを思い返しますと、平成８年に熊本市立東町中学校に赴任し副理事長として県中体連に携わり、早いもので２１年が過ぎました。その間、県大会や九州大会そして全国大会の運営経験を通して、県内の各郡市中体連の先生方と出会い、多くのものを学ばせていただきました。素晴らしい先生方と出会い、学ばせていただいたことをこれからの体育教師に伝えたいと思っています。それは不易と流行と言いますが、不易である日本の伝統教育の良さである、礼節を重んじる姿勢・態度、後ろ姿の教育を大切にして欲しいと思います。私の大好きな言葉に「潔さ・心意気・粋に感じる・義理・人情」、どの言葉も心に響きます。この一つ一つの言葉に「日本の心」があるように思います。これまでの中体連で出会った先生方の姿がまさしく「潔さ・心意気・粋に感じる・義理・人情」の姿であり、「日本の心」だと思っています。

私も後１年で退職を迎えます。先輩から受け継いだ「日本の心」をこれからの先生方に繋いでいかなければと思っているところです。

最後になりますが、県中体連はこれからも様々な多くの課題を抱えていますが、これまで脈々と受け継がれてきた中体連の魂を次代へ繋げて欲しいと思います。中体連・中体研の益々の発展を願い、お礼の言葉といたします。